JSPニュース

2009年 冬

No.67

証券コード：7942

平成21年4月1日～平成21年9月30日

社長メッセージ
Message from the President

代表取締役社長　**井上　六郎**

JSPニュース　No.67　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
新製品紹介 …… 06
株主アンケート集計結果のご報告 …… 07
連結財務ハイライト …… 10
連結セグメント情報 …… 11
要約連結財務諸表 …… 13
JSPカレンダー …… 15
会社概要／株主メモ／株式の状況 …… 17
表紙の写真 …… 18

当社グループを挙げて高付加
様々なコスト低減に取り組み、

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

ご案内の通り、昨年秋の米国サブプライム問題顕在化とリーマンショック以後惹起された世界金融危機、同時不況による経済事業環境の厳しさは、これまで私共が経験したことがないもので、特にそれまで経済を牽引してきたIT機器, 自動車需要の極端な落ち込みは極めて深刻なものでした。

当2009年度第2四半期連結累計期間(4月～9月)に於ける我が国経済は、本年初めの急速な景気後退から4月～6月には底打ちの感があり、7月～9月にはやっと回復の気配を見せたものの引き続き個人消費は低迷し、本格的な回復には至りませんでした。欧米でもマイナス成長が続きましたが、我が国を除くアジアの主要地域に於いては、中国を中心に回復基調に入った感がありました。

発泡樹脂業界に於きましては、一部食品包材を中心に生活に密着した市場の需要縮小は相対的に軽度であったものの、上記景気後退により、自動車部品, 包装材, 建築用断熱材等の需要は大幅に縮小し、事業環境は極めて厳しいものとなりました。7月～9月の期間に於いて若干回復の兆しは出たものの、諸般の状況は厳しく、新政権への移行後も先々の動向・回復の見通しはつけ難い情勢であります。

価値製品の販売に注力するとともに、収益確保に努めました。

以上の情勢下、最も環境が厳しく先々の予測が不透明な本年初めに中期経営計画「NEXT JSP」および初年度に当たる当期予算を策定致しました。この度、ご報告申し上げる第2四半期累計実績では、連結売上高は販売数量の減少に加えて、原材料値下がりに伴った販売価格低下の影響も大きく、前年同期に比べ26％減少したものの、ほぼ予算通りの38,822百万円となりました。

一方、当期は、当社グループを挙げて高付加価値製品の販売に注力するとともに、製造コスト削減，製造効率向上，諸経費削減等の様々なコスト低減に取り組み、収益確保に努めました。また、景気対策としての家電製品に対するエコポイント効果もあって、デジタル家電を中心に包装材需要が回復基調になったこと、欧米で在庫縮小と自動車購入助成策実施等で自動車製品の落ち込みが緩和されたこと、日本を除くアジア各国の経済回復に支えられたこと、そして予め厳しい経営環境に備えての諸コスト低減が一段と進展したことにより、営業利益は2,164百万円（対前期比23％増、対予算比104％増）、経常利益2,060百万円（対前期比17％増、対予算比79％増）となりました。

ここ数年来当社の収益は海外事業に大きく支えられてきましたが、今期はアジアでの事業は比較的堅調に推移したものの、欧米での自動車向需要が充分回復しなかったのに比べ、国内での事業・市場が多様化していることと高付加価値製品販売促進，コスト削減によって増益となり、むしろ国内事業が収益を支えた形となりました。

通期実績につながる第3・第4四半期の見通しは、アジア経済の堅調さに加えて、欧米事業で底打ち感があることから海外事業は幾分改善されると思っておりますが、国内事業は、デフレスパイラル的な需要低迷が引き続き懸念されること、当面70ドル／バレル付近で高下する原油価格も先行き不透明であること等、マイナス要因もあります。しかし、過去最も厳しい経済・事業環境を乗り切るべく取り得る方策を実施することにより、通期売上高77,500百万円（対前期比20％減、対予算比4％減）、経常利益3,700百万円（対前期比33％増、対予算比42％増）を確保する見込みです。

なお、此の度の中間配当金は1株当たり7円とさせて頂きました。年間の配当は期末配当金を含め1株当たり14円とさせて頂く予定です。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

井上六郎

JSPは日本全国に生産拠点を置いております。今回は東海・近畿地区にスポットをあて紹介いたします。東海地区には、三重県四日市市に四日市第一工場と四日市第二工場が、近畿地区には、兵庫県西部のたつの市に関西工場の合わせて三工場があります。

四日市第一工場

EPSカンパニー

発泡性ポリスチレンビーズ(EPS)は、魚箱・家電包装材・断熱材・土木資材・自動車部材等の製品として、幅広く使用されている発泡製品の原料樹脂ビーズです。

JSPは、EPSを四日市第一工場と鹿島工場(1995年シェルジャパン社の工場として操業開始)において製造し、スチロダイアの商品名で販売、全国100社以上の加工メーカーに供給しています。また昨年度の日本におけるEPSのリサイクル率は83.5%にも達し、優れた断熱性、軽量性も含めエコな素材として社会に貢献しています。

四日市第一工場は、前身の油化バーディッシェ㈱<三菱油化とBASFの合弁会社>の本社工場として1962年に設立以降、社名や製造品目*1は変わりつつも、EPSの製造、研究開発については、47年の歴史ある事業所です。(現在、各種発泡樹脂ビーズの研究開発は、四日市研究所として別組織で運営されています。)

三重県四日市市の第一石油化学コンビナートの内陸側に位置し、近隣では三菱ガス化学、三菱化学、JSR等の化学会社が操業しています。

また、エンドユーザーとなる家電や自動車産業が多い東海・関西地方に属し、技術交流や物流の面で恵まれた地域でもあります。

製造品目は、大量に使用される魚箱用グレード、緩衝包装材グレード、建材・土木資材用の自己消火性グレード等のほか、各種機能性に富んだ発泡樹脂ビーズを製造しています。

機能性発泡樹脂ビーズとして、クリアポール(鋳造模型用メチルメタクリレート系共重合発泡性ビーズ)、ソフトポール(耐衝撃性EPS)、エレンポール(ポリエチレン・ポリスチレン系複合発泡ビーズ)に加え2008年4月に日立化成工業㈱からEPS事業を譲り受け、OEM供給を受けてきたリサイプス(リサイクルEPS)やヒートポール／GR(耐熱性・耐油性AS発泡性ビーズ)等の製品群の製造設備も完成し、2009年中に量産化を予定しています。

機能性EPSの一部は世界中のJSPグループ各社を通じて、欧米、アジアにも輸出しています。

品質、環境面においては、1997年にISO9001を、2002年にISO14001を取得し、お客様と時代のニーズに対応した環境に優しく、機能性・品質

工場事務棟

四日市第一工場

に優れた製品・サービスを提供することに努め、また生産活動において安全・環境の維持向上に取り組んでいます。その成果として2009年9月時点で、当事業所は休業災害ゼロを39年継続しています。

＊1　＜製造品目＞
発泡ポリスチレンシート（PSP）：1973-2001年
発泡ポリプロピレンビーズ（EPP）：1987-2005年
ポリマーディスパージョン（DIS）：1968-現在、BASFジャパン六呂見工場

四日市第二工場

四日市第二工場では2つのカンパニーの製品を取扱っております。

工場正門

高機能材カンパニー

当工場は1991年4月に操業を開始し、JSPグループ内では新鋭の工場となります。主力製品である発泡性ポリプロピレンビーズ（EPP）を発泡させた成型品「ピーブロック」は自動車関連部材や通い函、梱包資材等の様々な用途に展開しています。

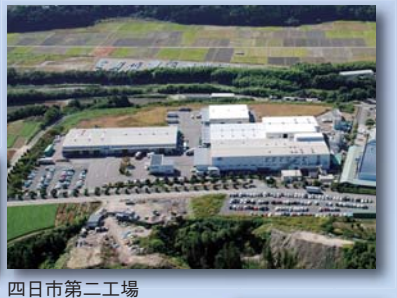
操業当初は鹿沼第二工場より発泡ビーズを移行し成型業務のみを行っておりましたが、2001年に発泡ビーズ設備を導入し発泡ビーズ製造から成型業務までを一貫して行う工場となりました。

その後2002年7月のJSPモールディング㈱（JSPM）設立を機に、西日本地区の成型業務をJSPM三重工場に移管しました。

また2003年には旧三菱化学フォームプラスティック㈱との合併により、発泡ポリプロピレン事業の統合を行い新規成型メーカーへの発泡ビーズ供給も開始しております。

現在も主に自動車産業向けに年々生産量を伸ばし、西日本地区の発泡ビーズ生産拠点として日々の生産活動を行っております。

自動車バンパー芯材（ピーブロック）


四日市第二工場

生活産業資材カンパニー

工場操業から4年後の1995年に西日本地区の産業用包装材のキャプロンシート生産拠点として稼動を開始、翌1996年には二次加工設備を導入し断裁加工も開始しました。

キャプロンシート

2002年7月の㈱ミラックス設立に伴い、押出・二次加工生産を自社から㈱ミラックスへ移管し、また2009年からはOEMにも対応し、生産効率アップ・物流コスト改善に努めております。

関西工場

関西工場は2つのカンパニーと関連会社が連携し生産活動を行なっています。

生活産業資材カンパニー

JSPの関西地区の拠点として、地元の熱心な誘致により、兵庫県西部の新宮町（現たつの市）に新宮スチレンペーパー㈱として、スチレンペーパー（PSP）の押出・成型一貫工場を目指して1973年に操業を開始しました。

PSPは軽量性・緩衝性・断熱性に優れ、主に食品包材用途として成型加工され、刺身や肉などのトレーやカップ麺容器等に幅広く使用されています。

当工場で生産したPSPの一部は敷地内の関連会社㈱KP関西工場で加工成型し、包装容器として出荷されています。

2002年に、日本ザンパック㈱（食品包装容器の製造・販売会社）の西日本物流拠点として、また物流の効率化を図るために関西物流センターを設立しました。

2006年からは、永久帯電防止ポリマーを配合し安定した帯電防止機能を持ち、静電気によるホコリ・ゴミの付着を抑える緩衝材として高評価を得ている「ミラマットエース」（MMA）の生産を開始しました。

建築土木資材カンパニー

1986年に、押出法ポリスチレンフォーム断熱材の「ミラフォーム」（MF）の生産を開始し、翌年にはJIS表示許可を取得しました。MFは高性能断熱材として、建築・住宅・冷凍分野の省エネルギー化に貢献しています。

関西工場は1995年に工業標準化優良工場として表彰されました。

現在、17,100坪の敷地に、170名強の従業員（含KP）にて生産をしています。

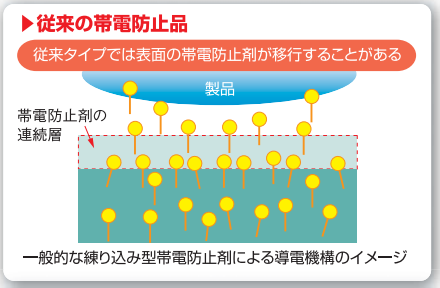
操業開始以来、「安全性向上・品質向上・コスト削減」に努めてきましたがこの度、2009年高圧ガス保安協会全国大会の「優良事業所」として表彰して頂く事になりました。

兵庫県西部の清流、揖保川に隣接した風光明媚な立地にて今後も「環境に優しいものづくり」を心掛け、地元との共存共栄を図ってまいります。

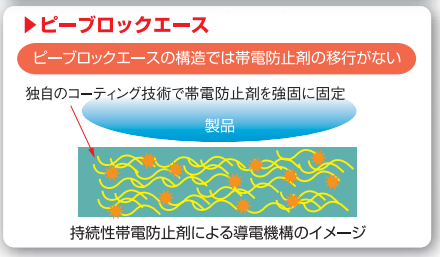
関西工場

ピーブロックエース

世界初！進化した持続性（永久）帯電防止発泡製品



一般的な練り込み型帯電防止剤による導電機構のイメージ



持続性帯電防止剤による導電機構のイメージ

帯電防止機能とは…

輸送途中などにおける環境下で、摩擦などにより発生する静電気を防ぐ機能。
これによりゴミやホコリの付着を防ぎます。

従来技術は…

発泡プラスチックの帯電防止機能は、従来、製品に界面活性剤を練りこんだり、塗布型帯電防止剤を塗布するのが主流でした。低分子量の帯電防止剤に頼る技術のため、帯電防止剤が製品へ移行したり、洗浄したときに帯電防止効果が低下する欠点がありました。

「ピーブロックエース」なら…

「ピーブロックエース」は原料である発泡ポリプロピレン（EPP）の表面に持続性（永久）帯電防止樹脂を特殊な技術でコーティングしているため、洗浄しても帯電防止機能が変化しにくく、内容物への転写及び移行はありません。また、低湿度な環境下でもベタつかず、ホコリが付きにくくなりました。

食品、精密工業製品などさまざまな業種で繰り返し使用の要求例が多い中、EPPの高い剛性で他の梱包材と比較してより多くの繰り返し使用が可能となるため、省エネルギーやCO_2削減にも寄与いたします。

期待できる用途：輸送用ボックス
（医療用、半導体用、液晶用、食品工場間用他）

株主アンケート集計結果のご報告

Report of the result of the questionnaire to stockholders

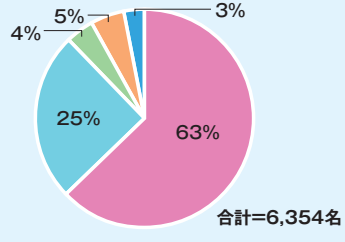
アンケートへのご協力ありがとうございました

大変多くの株主様よりご返送をいただきました。6,354名の株主様（総株主比率約66％）の集計となりました。多くの励ましやご意見は、社長の井上をはじめとする経営陣の参考とさせていただきます。

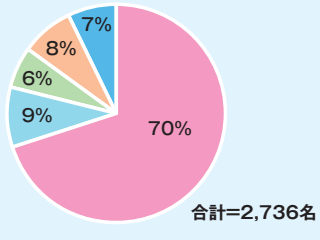
改めて感謝いたしますと共に、今後もご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

Q 当社株式の購入時期

2009年度



2008年度

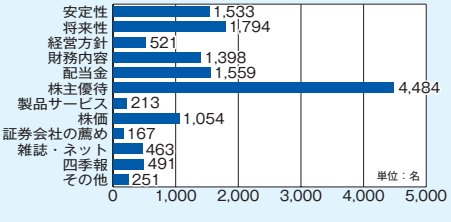


- 1年以内
- 2~3年前
- 4~5年前
- 5年以上前
- 株式公開時から

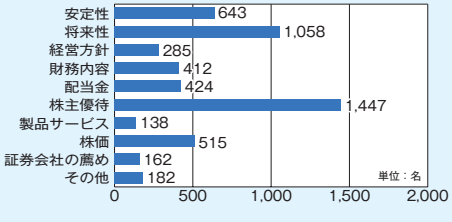
今回（2009年度）購入時期1年以内の株主様は63％、2～3年以内に購入の株主様を合わせると88％を占めており、新しい株主様が増え大変喜ばしく思っております。

Q 当社株式の購入理由

2009年度



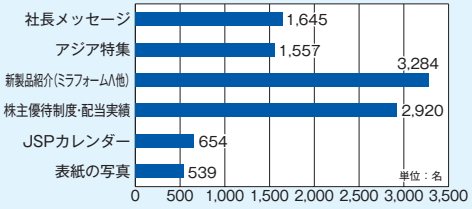
2008年度



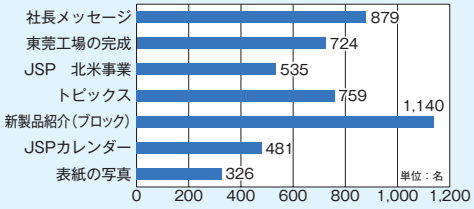
前回（2008年度）と比較して今回は圧倒的に“株主優待”が挙げられました。今後とも長期保有していただきますよう株主優待の継続に注力していきたいと思います。

Q JSPニュースで興味を持たれた内容

2009年度



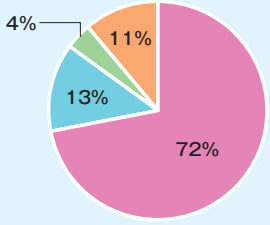
2008年度



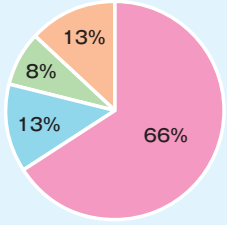
特に興味を持たれた内容のトップは、今回・前回共に“新製品紹介”でした。製造業としての将来は新製品開発力にかかっていますので、より注力する所存でございます。

Q 当社株式に対する今後の方針

2009年度



2008年度

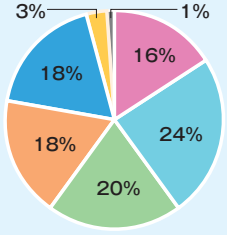


- 当面保有
- 買い増し
- 売却
- その他

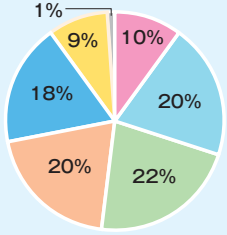
2009年度は“当面保有”を考えていただいている株主様が多く安心しております。安堵することなく、常にIRの充実に努めてまいります。

参考 当社の株主年代層

2009年度



2008年度



- 30才未満
- 30才代
- 40才代
- 50才代
- 60才代
- 70才代
- 80才以上

今回の集計結果より、株主様の年代層の割合は30代の方が一番多く、30代未満の方も10から16%に増えております。両方を合わせると40%にも達します。年々若返る傾向にあるようです。今後とも幅広い年代層に保有していただけるよう努めてまいります。

株主の皆様よりいただきました主なお声をご紹介いたします。

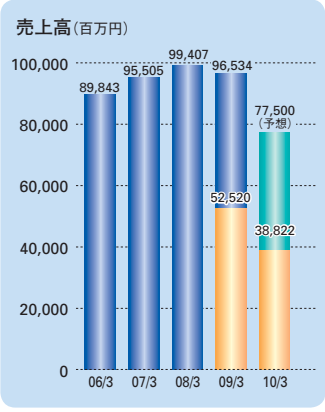
- ミラフォームΛ（ラムダ）やミラスペック-SSなどの新製品紹介を読み、感心しました。世の中のためになる物をどんどん開発して、これからも会社が発展することを願います。
- 環境に関わる事業内容なのでよりエコ、環境保全に努めて下さい。リサイクル、人体への影響等の研究も進めて下さい。
- 好不況に関わらず安定した経営をして欲しい。過剰な設備をかかえないように、投資計画は注意して下さい。
- 社長メッセージの内容が分かりやすく、コスト削減や経費削減に努力されていることも充分理解しました。しかし、現状こそ同業他社と競う好機と捉え、消極的経営に陥らぬよう切望いたします。
- 厳しい環境の中、QCサークル活動を行なっている企業は素晴らしい。QCサークル活動のない企業は成長しないと言われている。ぜひ活動を継続して欲しい。
- 世界同時不況の中、当面は全産業とも業績の急回復はなかなか見込めないと思います。しかしながら、長期的視野に基づいて保有技術を生かした新製品開発を優先し、今後の業績に寄与できるよう頑張ってください。
- 経営環境の変化に即応出来る様日常のリスク管理をおこたらないよう要望します。トップの経営意識（熱意）が大切です。
- 良い会社ですが知名度がないのが難点です。知名度UPに努力して下さい。まだまだ伸びる会社です。よろしくお願いします。
- 現株価に対する配当や優待は充分すぎる位なので、研究開発への投資と雇用維持を希望します。
- 各企業から企業ニュースが送付されてきますが初めて真剣に読み勉強になりました。研究開発、新規事業参画を期待しています。今後の発展を祈っています。
- 最終製品として社名が出る事やメディアに取り上げられることが少ないと思うので、個人向けIR活動を充実して欲しい。「JSPニュース」は他社と比べて読みやすい。
- 景気は不透明ですが、今後も社会に貢献する企業として発展されるよう期待しています。株式投資を始めて、最初に購入した貴社の株だけに思いいれもあり、頑張ってください。
- 株主優待やIRは良くやっていると思います。JSPの様に業態が地味な会社は株式市場にインパクトを与えるようなIRの仕方も研究してください。
- JSPと言って分かる人の何割かが“あの会社”と思い浮かべられるように社会に役立つ製品を提供して利益を上げてください。

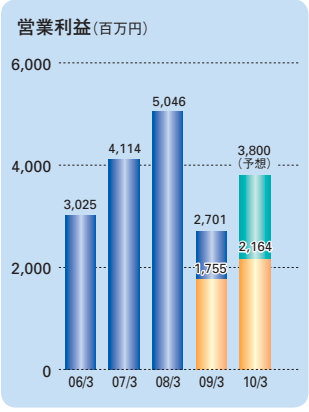
大変多くの株主様より貴重なご意見をいただき本当にありがとうございます。たくさんございました中からほんの一部ですが掲載させていただきました。
これからの事業活動での改善点と目標として役立ててまいります。

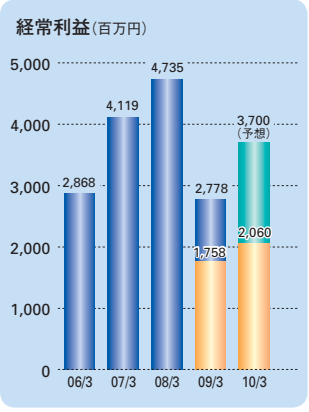
連結財務ハイライト

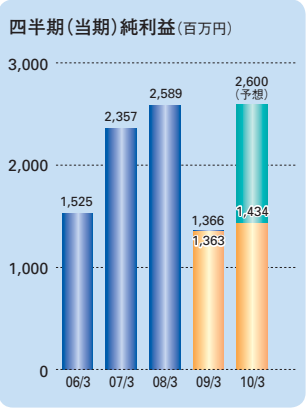
Consolidated Financial Highlights

（単位：百万円）	2006/3	2007/3	2008/3	2008/9	2009/3	2009/9
売上高	89,843	95,505	99,407	52,520	96,534	38,822
営業利益	3,025	4,114	5,046	1,755	2,701	2,164
経常利益	2,868	4,119	4,735	1,758	2,778	2,060
四半期（当期）純利益	1,525	2,357	2,589	1,363	1,366	1,434
純資産	40,058	45,989	48,057	47,585	42,001	44,654
総資産	88,039	95,178	94,993	97,757	84,316	84,887
（単位：%）						
売上高営業利益率	3.4	4.3	5.1	3.3	2.8	5.6
売上高経常利益率	3.2	4.3	4.8	3.3	2.9	5.3
売上高四半期（当期）純利益率	1.7	2.5	2.6	2.6	1.4	3.7
（単位：円）						
1株当たり四半期（当期）純利益	49.71	75.76	82.74	43.52	43.74	46.20
1株当たり純資産	1,296.15	1,376.68	1,425.83	1,416.76	1,278.38	1,355.39
（単位：百万円）						
設備投資	6,640	7,923	5,743	2,727	4,371	1,912
減価償却費	4,656	4,566	4,950	2,510	5,069	2,226







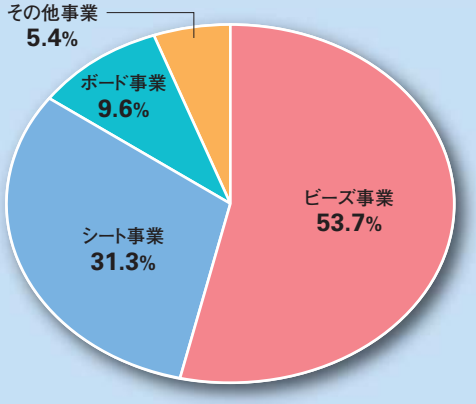


第2四半期累計　通期

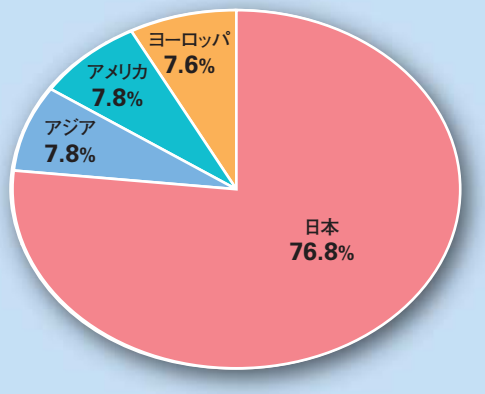
連結セグメント情報

Consolidated Segment Information

事業別売上高構成比



地域別売上高構成比



シート事業

シート事業は、当社グループ売上高の31.3%を占めています。

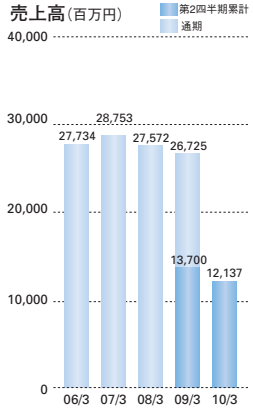
食品用包材の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」は、景気後退による需要減少に加え、低価格品の増加や軽量化による影響がありましたが、同業メーカーの撤退もあって、販売数量は増加しました。産業用包材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」、発泡ポリプロピレンシート「Pボード」、ポリエチレン気泡緩衝材「キャプロン」は、家電製品に対するエコポイント効果により販売数量は当初予想を上回ったものの、売上は前年同期に比べ減少しました。広告用ディスプレー材や折材の発泡ポリスチレンシート「ミラボード」の売上は減少しました。

この結果、シート事業の売上高は12,137百万円（前年同期比11.4%減）、営業利益はコスト低減効果もあり1,206百万円（同87.5%増）となりました。

スチレンペーパー（食品トレー）

ミラマット（産業用包装材）

同事業の売上高の推移



ビーズ事業

ビーズ事業は、当社グループ売上高の53.7%を占めています。

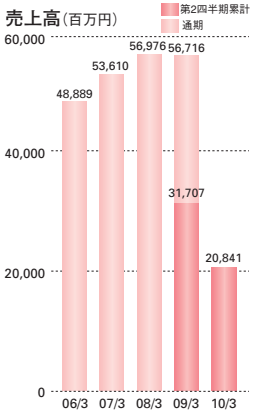
発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、世界各地で事業を展開しており、その特性を活かし、衝撃緩衝用バンパーコア材や内装材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函や家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材として広く用いられていますが、昨年来の世界的な景気悪化の影響により、日本をはじめアメリカ、ヨーロッパ、アジアの事業を展開している全ての地域において販売数量は大きく減少しました。魚箱、家電製品用緩衝材、建設土木用資材に用いられる発泡性ポリスチレン「スチロダイア」も、需要の減少により販売数量は減少しました。

この結果、ビーズ事業の売上高は20,841百万円(前年同期比34.3%減)、営業利益は1,652百万円(同12.9%減)となりました。

ピーブロック(IT・家電製品緩衝材)

スチロダイアブロック(軟弱地盤対策)

同事業の売上高の推移



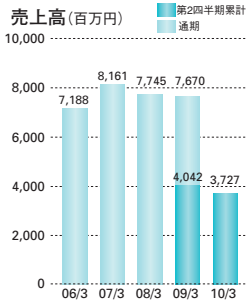
ボード事業

ボード事業は、当社グループ売上高の9.6%を占めています。

発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、住宅着工件数の大幅な減少や公共事業の減少により販売数量は減少しました。トラック等の積載品を保護するための緩衝材や自動車用部品の通い函に使用されている発泡ポリエチレン押出ボードの「ミラプランク」の販売数量は減少しました。

この結果、ボード事業の売上高は3,727百万円(前年同期比7.8%減)、営業利益はコスト低減効果もあって442百万円(同74.4%増)となりました。

同事業の売上高の推移



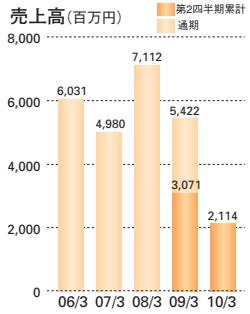
その他事業

その他事業は、当社グループ売上高の5.4%を占めています。

ユニットバス天井材に使用される「スーパーブロー」は、景気悪化による住宅着工件数の減少があったものの、従来の高級機種に加え比較的安価な普及機種用の販売が伸び、販売数量は増加しました。自動車エアコン用ダクトに使用されている軽量で断熱性、遮音性に優れたハイブリッド成形品「スーパーフォーム」の売上は、自動車販売不振の影響で減少しました。また、需要の減少により一般包材やプラスチックリサイクル機器の売上も減少しました。

この結果、その他事業の売上高は2,114百万円(前年同期比31.1%減)、営業損失は131百万円(前年同期は営業損失109百万円)となりました。なお、当社の完全子会社でリサイクル機器の製造販売を行っている日本リプロマシン工業㈱を、来年1月中旬を目処に清算する予定です。

同事業の売上高の推移



要約連結財務諸表

Summary of Consolidated Finalcial Statements

■要約四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当第2四半期 2009年9月30日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在	前年同期比 増減額
❶ 流動資産	43,995	53,271	△ 9,276
現金及び預金	9,601	8,236	1,364
受取手形及び売掛金	24,424	31,315	△ 6,890
有価証券	7	—	7
たな卸資産	7,599	11,139	△ 3,539
その他	2,553	2,941	△ 388
貸倒引当金	△ 191	△ 361	169
❷ 固定資産	40,892	44,485	△ 3,593
有形固定資産	36,551	40,156	△ 3,604
建物及び構築物	12,427	13,212	△ 785
機械装置及び運搬具	10,569	13,148	△ 2,579
土地	11,620	11,783	△ 163
その他	1,935	2,011	△ 76
無形固定資産	1,037	825	211
投資その他の資産	3,303	3,503	△ 200
投資有価証券	1,884	1,896	△ 11
その他	1,467	1,629	△ 162
貸倒引当金	△ 49	△ 22	△ 26
資産合計	84,887	97,757	△ 12,869

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❶流動資産
現金及び預金が1,364百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が6,890百万円減少したこと等により、流動資産は前年同期比9,276百万円減の43,995百万円となりました。

❷固定資産
有形固定資産が3,604百万円減少したこと等により、固定資産は前年同期比3,593百万円減の40,892百万円となりました。

（負債の部）	当第2四半期 2009年9月30日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在	前年同期比 増減額
流動負債	28,850	36,717	△ 7,866
支払手形及び買掛金	9,014	15,465	△ 6,450
短期借入金	8,765	9,462	△ 697
1年内返済予定の長期借入金	4,503	4,505	△ 2
1年内償還予定の社債	273	222	51
その他	6,294	7,061	△ 767
❸ 固定負債	11,382	13,454	△ 2,071
社債	—	273	△ 273
長期借入金	9,566	11,296	△ 1,730
その他	1,815	1,884	△ 68
負債合計	40,232	50,171	△ 9,938
（純資産の部）			
株主資本	46,088	45,256	832
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	22,765	21,765	1,000
自己株式	△ 211	△ 42	△ 168
評価・換算差額等	△ 4,001	△ 837	△ 3,163
その他有価証券評価差額金	221	128	93
為替換算調整勘定	△ 4,222	△ 965	△ 3,256
少数株主持分	2,566	3,166	△ 599
❹ 純資産合計	44,654	47,585	△ 2,931
負債及び純資産合計	84,887	97,757	△ 12,869

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❸固定負債
社債が273百万円、長期借入金が1,730百万円減少したこと等により、固定負債は前年同期比2,071百万円減の11,382百万円となりました。

❹純資産
純資産は、前年同期比2,931百万円減の44,654百万円となりました。これは為替換算調整勘定が3,256百万円減少したこと等によるものです。1株当たり純資産は1,355.39円となりました。

■要約四半期連結損益計算書（累計）（単位：百万円）

	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前年同期比 増減額
❺ 売上高	38,822	52,520	△ 13,698
売上原価	27,278	39,952	△ 12,674
売上総利益	11,544	12,568	△ 1,024
販売費及び一般管理費	9,379	10,812	△ 1,433
❻ 営業利益	2,164	1,755	409
営業外収益	307	401	△ 93
営業外費用	411	399	12
❻ 経常利益	2,060	1,758	302
特別利益	28	135	△ 106
特別損失	108	189	△ 81
税金等調整前四半期純利益	1,980	1,703	277
法人税等	383	48	334
少数株主利益	162	290	△ 128
❼ 四半期純利益	1,434	1,363	70

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❺売上高
当社グループでは、高付加価値製品の販売に全社を挙げて取り組んでまいりましたが、販売数量の減少に加え、原材料価格の値下りに伴う販売価格低下の影響などにより、第2四半期連結累計期間は、前年同期比26.1%減の38,822百万円となりました。

❻営業利益・経常利益
景気対策としての家電製品に対するエコポイント効果もあり、デジタル家電を中心に包装材の需要が回復基調になったこと等により、営業利益は、前年同期比23.3%増の2,164百万円、経常利益は、前年同期比17.2%増の2,060百万円となりました。

❼四半期純利益
以上の結果、四半期純利益は、前年同期比5.2%増の1,434百万円となりました。

■四半期連結キャッシュ・フローの状況（累計）（単位：百万円）

	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前年同期比 増減額
❽ 営業活動による キャッシュ・フロー	5,054	1,664	3,390
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,078	△ 2,497	418
❾ 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,620	732	△ 3,352
現金及び現金同等物 四半期末残高	7,119	5,615	1,503

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❽営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純利益が1,980百万円、減価償却費が2,226百万円、たな卸資産の減少1,591百万円、売上債権が771百万円増加、法人税等の支払額325百万円。差引き5,054百万円（前年同期比3,390百万の増加）となりました。

❾財務活動によるキャッシュ・フロー
短期借入金の純減による支出が444百万円、長期借入金の返済による支出が2,499百万円、長期借入金による収入が700百万円。差引き2,620百万円の支出（前年同期は732百万円の収入）となりました。

2009 7

▶「野村インベスター・リレーションズ㈱主催　個人投資家説明会」に参加

7月29日、野村インベスター・リレーションズ㈱が主催する合同の「個人投資家説明会」に参加し、当社社長の井上がプレゼンテーションをいたしました。

▶「平成22年3月期　第1四半期決算短信」を発表

7月30日、東京証券取引所に平成22年3月期　第1四半期決算を報告し、対外発表いたしました。

9

▶「子会社の解散に関するお知らせ」を発表

9月14日、当社の連結子会社である日本リプロマシン工業㈱を解散し、清算手続きに入ることを決議し発表いたしました。

1. 解散の理由

これまでリサイクル機器等のメーカーとして、プラスチック廃棄物の再資源化を中心に事業を展開してきましたが、景気低迷に伴う需要減少や国際的な価格競争激化などにより経営環境が悪化しているため、将来的に事業継続が困難であると判断したためであります。

2. 解散する子会社の概要

(1)名称	日本リプロマシン工業株式会社	
(2)所在地	栃木県鹿沼市茂呂610番地1	
(3)代表者の役職・氏名	代表取締役　植松　武文	
(4)事業内容	リサイクル機器等の製造・販売	
(5)資本金	50百万円	
(6)設立年月日	昭和49(1974)年7月1日	
(7)大株主及び持株比率	株式会社ジェイエスピー　100%	
(8)上場会社と当該会社の関係	資本関係	株式会社ジェイエスピー　100%
	人的関係	非常勤役員4名、出向者2名
	取引関係	リサイクル機器等の購入及び補修
	関連当事者への該当状況	該当なし

3. 解散及び精算の日程

平成21年11月中旬　当該子会社の株主総会にて解散を決議(予定)
平成22年　1月中旬　清算結了(予定)

▶広島出張所　移転

9月24日、広島出張所が移転いたしました。
新住所：〒732-0052　広島県広島市東区光町1-12-20　もみじ広島光町ビル
ＴＥＬ：082-568-0566

▶資本金の変更(平成21年9月30日現在)

資本金	10,128百万円<増加なし>
前回報告(平成21年3月末)	10,128百万円
発行済株式総数	31,413,473株

10

▶「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表

10月13日、世界的な景気後退の影響の中、全体として販売数量は減少したものの、家電業界の景気回復が当初予想を上回ったことや、グループ全体のコスト低減が一段と進んだことにより、利益は前回の予想を上回る見込みとなったため、平成21年7月30日に公表した業績予想の修正を発表いたしました。

1. 平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想	39,000	1,000	1,000	600
今回発表予想	38,600	2,000	1,950	1,350
参考：前期第2四半期実績（平成21年3月期第2四半期）	52,520	1,755	1,758	1,363

2. 平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想	81,000	2,300	2,400	1,400
今回発表予想	77,500	3,800	3,700	2,600
参考：前期実績（平成21年3月期）	96,534	2,701	2,778	1,366

▶「環境報告書2008」を発行

昨年度に当社が取組んだ環境保全活動に関する報告書を発行いたしました。当社事業活動における環境負荷の状況と、各事業所の環境保全・改善のための具体的な活動について報告しております。

▶「平成22年3月期　第2四半期決算短信」を発表

10月29日、東京証券取引所に平成22年3月期　第2四半期決算を報告し、対外発表いたしました。

11

▶第2四半期決算説明会

11月19日、如水会館においてアナリスト、ファンドマネージャーに対し、平成22年3月期　第2四半期決算の説明会を開催いたしました。

春号休刊のお知らせ

毎年5月に発行してまいりましたJSPニュースの春号は休刊とさせていただきます。今後は夏号と冬号の年2回発行となります。

会社情報（2009年9月30日現在）

Corporate Data

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	101億2,800万円
決算期	3月
従業員数	658名（男546名・女112名）出向者除く 連結2,178名（国内1,218名・海外960名）
事業所他	6営業所、11工場、2研究所
主要関連企業	国内12社、海外21社

大株主

株主名	株数（千株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,656
三菱化学株式会社	1,234
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,223
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	1,186
JSP取引先持株会	1,110
資産管理サービス信託銀行株式会社	614
JSP従業員持株会	477
日興シティ信託銀行株式会社	355
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナルキャップバリューポートフォリオ	324

※当社は自己株式361千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。）

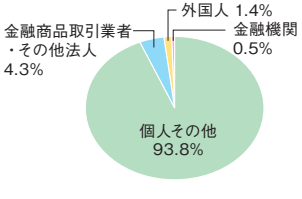
（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

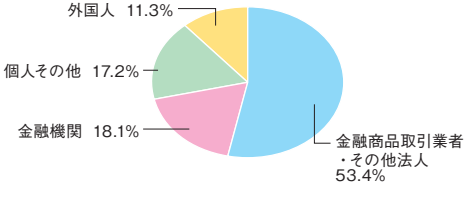
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主数	6,681名

株主数別分布状況



株式数別分布状況



カール・テオドール橋付近

ドイツ　ハイデルベルク

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

ハイデルベルクの街並みとネッカー川に架かるカール・テオドール橋

ハイデルベルクはドイツ・ロマン主義の中心的な都市です。特に1386年のハイデルベルク大学※1設立以降は、学生の街として知られ、多くの詩人や芸術家が心の安らぎを求めて訪れています。ドイツを代表する大詩人ゲーテ※2は8回も訪れ、晩年に恋したマリアンネ・フォン・ヴィレマーとの大ロマンは詩集に華を添えたそうです。

私は長い間この街の名前を「アルト・ハイデルベルク」と思い込んでいましたが、それは戯曲アルト・ハイデルベルクの影響で、王子ハィンリッヒと下宿のウィーン生まれのケティとの恋物語に洗脳されていたようです。しかし写真を現像してみると、「ALT Heidelberger…」のプレートを見つけて安堵しました。

ハイデルベルクはネッカー川の両岸に広がる小ぢんまりとした街です。古城と学生関連の施設、そして赤レンガのしっとりとした雰囲気溢れる街並みは逸品で、特に古城からの俯瞰は息を呑むほどです。上部写真にある橋は18世紀末に選帝候カール・テオドールによって建設されました。それ以前は屋根付きの「跳ね橋」で、交通の便より防衛を重んじていました。橋門の塔（表紙および上部写真左端中央の白壁の塔）は13世紀の城壁の一部だそうで、歴史の重さを感じます。橋を渡るとシュランゲン小道があり、さらにそこから続く坂道を上ると哲学者の道で、多くの芸術家が思索を重ねたとか…。哲学者の道の上部からの橋・街・古城の全景はまさに絶品で、季節によっては古城サイドの景観より見応えがありそうです。

ハイデルベルクはロマンティック街道※3として知られていますが、むしろ古城街道※4の中心的存在で、ダイヤモンド社の「ドイツの古城ホテルとレストラン」によると、ここより列車で10分程のネッカーゲミュントにあるホテル「ツム・リッター」は古城ホテルの中でも人気が高く、味わい深いホテルだそうで、ホテルの名物は「騎士の宴」※5で中世の騎士の料理を再現したものだそうです。

※1　**ハイデルベルク大学**
ドイツ最古の大学。ベルリン大学などと並びドイツ有数の世界的な大学で、ヨーロッパ各地から優秀な学生が集まり、多くのノーベル賞受賞者を生み出している。

※2　**ゲーテ**
ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ（1749年-1832年）。ドイツの詩人、劇作家、小説家、哲学者などの顔を持つ。ドイツを代表する文豪で、小説「若きウェルテルの悩み」、叙事詩「ヘルマンとドロテーア」、詩劇「ファウスト」など広い分野で重要な作品を残した。

※3　**ロマンティック街道**
ドイツのヴュルツブルクからフュッセンまでの366kmの街道ルート。街道沿いには中世都市や美しい城、宗教建築、工芸品などが点在する観光資源の豊富なルートで、最も人気の高い観光街道のひとつ。ローテンブルクで古城街道と交差する。

※4　**古城街道**
マンハイムからチェコのプラハまでを結ぶ全長1,000kmに及ぶドイツ観光街道のひとつ。マンハイムからのネッカー渓谷沿いは数多くの古城がひしめいている地として知られ、これらの城館の中にはホテルやレストランなどとして営業しているものも多くあり、人気プランの一つとなっている。

※5　**騎士の宴（中世の騎士の料理）**
当時、山野の狩猟権を独占していた王侯貴族は食卓に狩猟鳥獣の料理を並べており、騎士たちは狩猟でしとめた野獣の新鮮な肉を好んで食べていたそうで、それを再現したものと思われる。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300
営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒984-0817	仙台市若林区堰場12-5（ソレアード舟丁）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0048	大阪市中央区瓦町3-1-4（トーア紡ビル）	06-6202-3775
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854
出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20（もみじ広島光町ビル）	082-568-0566
工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂2626-4	0289-60-3305
鹿沼第五	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県鹿本郡植木町宮原553	096-274-7101
研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海　外

北　米	アジア
JSP International, LLC.（アメリカ）	JSP Foam Products, PTE. Ltd.（シンガポール）
JSP International de Mexico, S.A. de C.V.（メキシコ）	Taiwan JSP Chemical Co., Ltd.（台湾）
	KOSPA Corporation（韓国）
欧　州	JSP Plastics (Wuxi) Co., Ltd.（中国）
JSP International SARL（フランス）	JSP International Trading (Shanghai) Co., Ltd.（中国）
JSP International GmbH & Co.KG（ドイツ）	Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., Ltd.（中国）
JSP International s.r.o.（チェコ）	JSP Plastics (Dongguan) Co., Ltd.（中国）

発行　株式会社 JSP
東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル
IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302
ホームページ　http://www.co-jsp.co.jp

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%再生紙
この印刷物は70%古紙再生紙と
植物性大豆インキを使用しております。